

評価問題例

CLICK

評価問題シート
はこちら

単元の流れへ

- 1 勘違いをして石清水にお参りできなかったことを「仁和寺にある法師」が分かった後、「かたへの人」は「仁和寺にある法師」にどんな言葉をかけたと思いますか。「かたへの人」になったつもりで会話文で答えなさい。

かたへの人言葉は慰め、批判など様々な内容が想定でき、生徒の多様な意見を引き出すことができる。

- 2 課題「意見文の作成」

- ・「古文を今に生かす」という題の作文を、次の条件にしたがって書きなさい。

条件

- ① 古文のどのような内容が今に生かせるのか、具体的に書くこと。
- ② なぜ、生かせるのか、その理由を書くこと。
- ③ 句読点も含め、180字～200字で書くこと。

古文を現代に生かす視点から考えさせることで、意欲的に取り組めるよう工夫する。

評価問題のポイント

- 1 書くことで音読、読み取りを振り返らせるとともに、感じたこと、考えたことを整理させることがねらいである。そのため、単なる印象や雰囲気にも頼るのではなく、本文の表現に基づき、根拠を示しながら書くように指導する。
- 2 文章作成に関しては過程を大切に、「選材」「構成」「記述」に重点を置いて指導する。改善資料に示された文章様式も観点に入れて「どの学年、どの単元で、どの過程に重点を置くべきか。」について考え、系統的、段階的に指導する。

(参考 京の国語力向上のための国語科カリキュラム改善資料「書くこと」の指導過程)

京の国語力向上のための国語科カリキュラム改善資料「書くこと」の指導過程はこちら

CLICK

評価規準 — 評価問題 1 —

- 1 正しい表記、表現で書いている。
- 2 出題要件を満たしている。
 - ① 「仁和寺にある法師」が勘違いをして石清水にお参りできなかったことを前提としている。
 - ② 「かたへの人」の視点に立っている。
 - ③ 会話文になっている。

評価規準 — 評価問題 2 —

- 1 全体を通して、構成を工夫し適切な場面、理由（根拠）を挙げて、説得力のある意見を述べている。
- 2 出題要件を満たしている。
 - ① 古文のどのような内容が今に生かせるのか、具体的に書いている。
 - ② なぜ、生かせるのか、その理由を書いている。
 - ③ 句読点も含め、180字～200字で書いている。
- 3 正しい表記、表現で書いている。